# Up to You！活動報告会
# ～若者が考えるまちづくり～
# 活 動 紹 介

あまぽーとアマブラリ
尼崎市立ユース交流センター

## 活動経緯

・父子家庭で、辛かったり悩んでいた時周りに相談できるような人がいなくて一人で抱え込んでいた。
・私たちと同じような状況にいる人がたくさんいると思った。

## 辛い時期を乗り越えた方法

【私たちの場合】
周りに相談できるような人がいなかったため、時間が解決してくれるのを待った。
＝今の自分の置かれている環境に慣れるしかなかった。

# 家庭環境で悩んでいる中高生へ、気分転換や精神的な支え

## 自分たちの経験を踏まえて

・辛い時にそのことを忘れられるような気分転換のできる居場所が必要
・同じような思いをしている人がいるということを知り、自分は一人ではないと気づく
・相談所ではなく、もっと気軽に話を聞いてもらえる環境

## 〈私たちがしたいこと〉

・Instagramで短編漫画の投稿
→実際に自分たちもInstagramに投稿されている経験談の漫画を読み心が軽くなったから。
・ユース交流センターなどの施設紹介をし、辛い思いをしている人へ新しい居場所づくりの提供

良ければInstagramのフォローお願いします🙇♂

# 入院している子どもたちの心の支援

**中学1年生の時にネフローゼ症候群発病小児科病棟から外室禁止状態⚠とても辛かった。**

**入院生活唯一の楽しみが月1回の催し物。ピエロやマジックなどのおかげで退屈な病院生活にも自然と笑顔が生まれた。**

**他の入院している子と一緒に遊んだり勉強したりしていると、仲良くなって入院の不安を打ち明けてくれた。**

## 1 私の体験から

### 辛い思いをしている子どもたちのために何かしたい！

・年齢が近いからこそ気軽に相談をしてもらえるのではないか？
・イベントがもっとあれば、入院中に気持ちが楽になるのではないか？

## 2 インタビュー調査

### 小児科病棟の看護師さんにインタビュー！

・コロナ禍で、催し物がなくなったり縮小したりしている。
・家族の面会が15分。
・看護師が遊んだり勉強を教えたりする時間がなかなかとれない。

## 3 やりたいこと

### オンラインの居場所を作りたい！

・週2回Zoomでイベントを開催。
・企画運営は高校生と大学生で行う。
・～9歳は遊びが中心
・10歳～15歳は勉強や遊びを通して相談を聞ける関係性を作る。

## 4 活動状況

### 活動状況

・学生団体second nurses(ｾｶﾝﾄﾞﾅｰｽ)設立
・説明会を開催し、運営メンバーを募集中。

### 課題

・病院や入院児童の親御さんとの繋がりがない。
・電子機器と通信環境が必要。

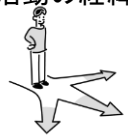
**陰で支える日向になろう！**

活動の詳細やお問い合わせは、Instagramをチェックしてください→→→

SECOND_NURSES

# てんかんについて

＜活動の経緯＞



私は12歳の冬に「てんかん」になりました。普段の生活で病気について理解されないことや、心無い言葉を言われた経験があります。そのような経験を活かして、当事者が不安を抱え込みすぎないでいい環境を作りたいと思い活動を始めました。

＜行った活動＞

・Twitterで当事者の方にアンケート調査。（87件の回答）
・みらいずワークス吉澤さんと、てんかんYoutuberリンカーン中村さんに仕事についてインタビュー。
・てんかん独自のヘルプマークを作成中。

＜ｱﾝｹｰﾄ結果＞

**当事者が現在抱えている不安**

・パートナー、家族、友達の関係に問題が起こらないか
・結婚、妊娠、出産、子育て、仕事、進路
・車の運転が怖い
・頼る人がいない
・周りの不安の声
・いつ倒れるか

＜調査結果＞

**調査から見えた現状**

・本人の希望している職業に就ける努力はしている
・一般の会社では約9割は理解が無い印象がある
・オープンにしたら採用されない時がある
・就職するまでの段階を踏めていないのではないか

＜課題＞

・周りに打ち明けることで変化が起きる不安
・差別や偏見
・当事者が自分で段階を踏めているのか自覚できているのか
・結婚、妊娠、出産、子育て、仕事、進路に対しての不安

＜お願い＞

・てんかん独自のヘルプマークを作成中です。てんかん当事者に配布できる場所があれば教えてください。
⇒市役所や病院などを想定
・人によって症状が違います。周りに当事者がいたら、“てんかん”とひとくくりにせず、聞いてみてください。

＜理想の状態＞

・てんかんについて周囲の人が理解している。
・当事者の不安が軽減される。
・当事者が自分の病気について理解し、向き合っている。

# 児童虐待について

## ① 体験

**大きな声で怒鳴ったり、殴る・蹴るなどの暴力を受けた。**

## ② 課題

- **虐待相談件数の増加**
- **当事者からのSOSを出すことが難しい**
- **周りの人が助けることを躊躇してしまう**

## ③ 活動

- **SNSを通して啓発・対談の感想、考え・自身の体験の発信**
- **児童相談所設立に向けての意見交換会への参加**
- **インタビューやアンケートでの現状把握**

## ④ 目指す未来

- **当事者が安心して助けを求めることができ、周りがそれを躊躇なく助けられる社会**

**SNSのQRコード**

# ヤングケアラーの理解と支援

ヤングケアラーとは
「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子ども」

ケアラーの声

ケアでやりたい部活ができなかった。
運動部に入ってみたかった

お母さんと一緒に居られる唯一の時間が夜中２時。酔った母の話し相手の時間。

**目指す社会**

**ヤングケアラーがケアと自分の人生のバランスを選べる社会**

人生の選択肢を奪うケア

唯一家族のつながりを得られるケア

ケアの影響は
マイナスだけではない！

ケアも自分らしさも
失わない支援が必要

STEP 01

## 言葉を知ってもらう

・普及啓発のカードを作る
・SNSで言葉を広げる
・学校などで講演会を行う

リスク/課題
・新たないじめ，差別の原因になる可能性
・ヤングケアラーを発見しても次の支援につながらない

STEP 02

## 配慮ある理解を広げる

・普及する人（カードを配る人etc…）と連携
・辛さは人と比べられないことを伝える

STEP 03

## 支援につなげる

・現在ある支援のポータルサイトを作る
・配慮を持った人々を活かしたアウトリーチを行う
・当事者同士でつながれる場をつくる(10月頃開始予定)

# もっと若者が訪れる図書館を作る！！！！！

・このテーマの問題点

図書館改革したい人
・図書館にカフェを作りたい！
・図書館のパソコンを改善してほしい！！

尼崎市の図書館
「どうすれば若者に来てもらえるかわからない」

**図書館の人にはない視点で何かをやりたい！！！**

**〇図書館でイベントをやってみよう！！**

**謎解きゲームイベントをやりたい！**

本好きの本好きによる本好きにさせちゃおうイベント
・12月～1月
・中高生が対象
・参加者は40人を想定
・謎を解きながら館内を歩き回る
・午前午後の二部制

# 2年以内に尼崎にスケートパークを作る！

【課題】スケートボードはオリンピック種目にもなり、日本でも人気が出ているが、まだスケートボードに対して、悪い遊びや、迷惑行為などの否定的なイメージが強く、その偏見の影響で安心して練習できる場所がない。

その現状を変えるべく…

**ASK**というスケートボードチーム を設立
“2年以内にみんなが安心してスケートボードを練習できるスケートパークを作る”
という目標のもと様々な活動をしている。

Instagram

↑ASKの活動内容の詳細はこちら↑

【この活動を通して、２つの改善するべき点が浮上】

## ①スケートボードに対するイメージが悪い！

悪いイメージを変えるために…

・スケートボードの体験会と交流会　etc…

多世代交流が実現！

地域の方や市役所職員、小中高生など、たくさんの方々が参加し、楽しく交流できました！

## ②スケートボードができる環境が整っていない！

スケートパークを作るために…

・西宮浜総合公園スケートパーク視察　etc…

海外にあるスケートパークのように、全てコンクリート製！

Tシャツも作成！

# トランスジェンダーで悩む高校生が過ごしやすい尼崎市へ！！

〇学生トランスジェンダーの主な悩み

ズボンを履きたい
女の子らしさを強要される
短髪にしたら馬鹿にされる
偏見、いじめ、etc…

長い髪にしたい
スカートを履きたい
オカマだと馬鹿にされる
偏見、いじめ、etc…

学生の苦しみや生きづらさなどを、
学校は無視をしてはいけないはず

校則にトランスジェンダー当事者を配慮する制度を設けてほしい

トランスジェンダーについて理解を深める機会が欲しい。

など

そのために…

**アンケートを実施**

高校生の現状を把握！

70名以上の高校生の回答から
・LGBTQについて知りたい！
・服装や髪型を縛られるのはおかしいと思う！
などの意見が多数

理解を広めるための講演行ったり、
トランスジェンダーを証明するものを作りたい。

# 子育て中の親が気軽に来れて、リラックスできる場所を作りたい！

## 課題

子育てに対して不安を抱えている親御さんが多い
↓
子どもに八つ当たりをしてしまう

私たちの活動を通して

## 目指す未来

親がストレスを溜めず、余裕をもって子どもと接することができる。
↓
子どもが愛情を感じられる

### 専門家

悩みを抱えている子育て世帯へアウトリーチしたい

### 親子

誰かに話を聞いてほしい…
居場所がない…

### 定期的なイベントの開催

親同士の交流。楽しいイベントから相談できる関係を作る。

ｷｯｽﾞｽﾍﾟｰｽを将来幼児教育に関わりたい学生が運営する。

### 学生

子どもに関わりたい！
ボランティアしたい！

「私は私、あなたはあなた。」
それが、幼少の頃から培われてきた価値観です。

・経験・
「みんなと一緒」が当たり前のように強要された学校の生きづらさ。

違うことを行う度に先生から不審な目を向けられた

・疑問・
学校教育が担うべき教育とは何であるのか？課題とは何なのか？

多様な生徒をおしつぶすことのない教育とは？

学力以外で社会で生きていく為に必要なものとは？

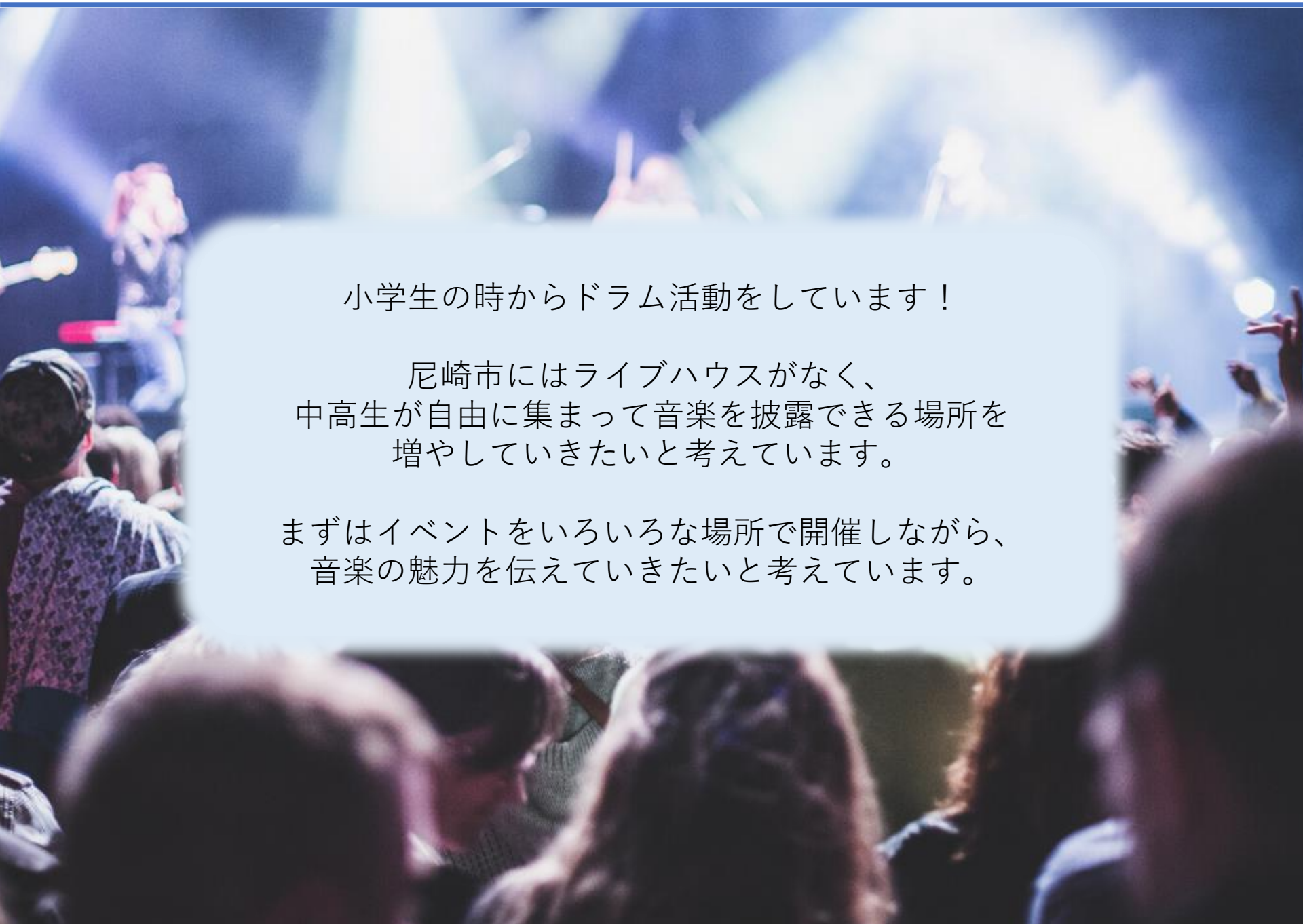
地域に目を向けるきっかけになるものは？

・今後・
若者が多様性と自主性を認め合うには、
何が必要なのか。

色々な人やもの、コトに関われる機会が多くある

学校は様々な配慮が必要で、新しい価値観を入れることはとても難しい。
でも私は、学校にこそ居場所が欲しかった。同じ生徒にこそ、助けて欲しかった。
だから私は、学校の中を様々なものやコトに出会える場所にしていきたい。

# liveハウスや人前に音楽を披露するものがほしい



小学生の時からドラム活動をしています！

尼崎市にはライブハウスがなく、
中高生が自由に集まって音楽を披露できる場所を
増やしていきたいと考えています。

まずはイベントをいろいろな場所で開催しながら、
音楽の魅力を伝えていきたいと考えています。

# やってみたいを叶えたい～尼崎で青春したい！～

## 【思い描く未来図】尼崎をサークル活動が多く、若者が楽しめるまちNo１！！

（私の思いや現状）私自身、中高で部活をしていて、学校の中だけではうまく馴染めないこともあった。部活自体は楽しいが、先輩や同級生との関係がうまくいかず、いつの間にかいくのを避けるようになっていた。同時期に尼崎で色々 な活動をする上で、他校の生徒と仲良くなった。このことから校内だけではなく、校外でできる部活があればいいのにと思うようになった。実際に中高生が主体の部活はあるのかと思い、尼崎市のサークル活動を調べてみた。しかし結果は30代からのものが多く、若者が活動しているものが見つからなかった。

**作ったときに見込まれる効果とは・・・**

- 校外の友情を築ける
- 幅広い年代と関わることができる
- 学校にない部活が作れる
- 人と出会うことで学びが深まる！！
- **若者が活躍するまちになる！**

課題・部費問題（高校生無料にしたい、、）
・場所問題（参加者の住んでる場所にもよるよね）
・保険問題（けがをした時どうしよ）
・人不足（作りたい人が少ない時どうしよ）

**考えている仕組み**

**例①　よくある部活編**

バレーがしたいけど学校ではレギュラーになれない。誰かしてくれる人いないかな

悩める学生A

ユース交流センターに相談！

バレー部を作りたい子がいるけど誰か興味ある？？（利用者やSNSで発信）

ユース交流センター、サークル作り部

私もしたい！！一緒にやろう！作ろう！

バレーをしたい人たち

**例② 珍しい部活編**

スケボー部を作りたい！！学校で作ろうとしたけどダメだった、、、

悩める学生B

ユース交流センターに相談！

スケボー部では色々な技を教えあって練習するよー出れそうなら大会にも出たいねー（利用者やSNSで発信）

ユース交流センター、サークル作り部

スケボーの練習をしたいけど、場所がないし教えてくれる人もいないんだ、、、僕、入る！！

スケボーしたい人

**例③ 学校の部活に入れない人編**

学校と家の距離が遠すぎて部活に入ると帰る時間がとても遅くなっちゃうから部活に入れない、、

悩める学生C

ユース交流センターの応募を見る

このサークル活動はできる範囲での参加でいいよーやりたい部活作れるよー

ユース交流センター、サークル作り部

これなら休みの日や早く帰ってきた時に 参加できる！！テスト前は勉強に集中できる！学校が離れた友達誘って参加してみよう！

悩める学生C

# 防災教育の向上について

**今の避難訓練は本当にもしものためになっているのか**

**小学生や地域の人が参加しやすい、質の良い防災教育を尼崎から**

〇若者からみる防災意識

今の防災訓練は
・危機感は感じない
・校内でしか役に立たない
・あまり覚えていない
・避難時間をはかるだけ

災害の準備は
・やろうと思って先延ばし
・大人も防災意識がない
・なんとかなる気がする
・押し入れの奥底に

**他人事ではなく自分事と思えるような防災意識が必要**

**防災教育を見直すことが必要**

**〇なぜ小学生から？**
脳の発達とともに思考力や判断力など、防災を通じて得るものが多いと考える。1年生～6年生の幅広い年齢が連携でき、コミュニケーションも兼ねることができる。

**〇地域連携の重要性**
阪神・淡路大震災で助かった被災者の８割が近所の人による救助だったように、コミュニティがなければ助け合いは成立しない。災害時以外での助け合いにも期待。

避難訓練のリアリティを見直し、防災について考える機会を増加、地域との連携を深めることで、**生存率向上**と**地域の活性化**を同時にはかることができる。

「防災と言わない防災」　「特別なものとしての防災」